

曲江（杜甫）

朝より 回って 日々 春衣を 典す

毎日 江頭 酔を 尽くして 帰る

酒債 尋常 行く 処に 有り

人生 七十 古来 稀なり

花を 穿つ 蛺蝶 深々として 見え

水に 点ずる 蜻蜓 款々として 飛ぶ

伝語す 風光 共に 流転し

暫時 相賞して 相 違ふこと 莫かれと

朝回日日典春衣 毎日江頭盡醉歸
酒債尋常行處有 人生七十古來稀
穿花蛺蝶深深見 鮎水蜻蜓款款飛
傳語風光共流轉 暫時相賞莫相違

解説 長安の東南隅にある曲江で酒を飲み、晩春の風景を見て作ったもの。

語釈 ※曲江Ⅱの名で曲江池ともいう。※朝回Ⅱ朝廷から帰る。※典Ⅱ質に入れる。
※江頭Ⅱ曲江のほとり。※酒債Ⅱ屋の借金。※尋常Ⅱ普通。あたりまえ。※人生七十
古來稀Ⅱ人が七十まで生きられるのはごく少ないこと。七十を古稀（こき）というのはこの句
による。※穿花Ⅱ花の咲いている中に入る。こと。※蛺蝶Ⅱあげはのちよう。※深深Ⅱ
奥深くかすかなこと。蝶が沢山の花の中を見え隠れに飛んで蜜を吸うさま。※点水Ⅱ
水面に尾をつけること。※蜻蜓Ⅱとんぼ。※款款Ⅱゆつくりと。※伝語Ⅱ風光に伝える。
※流転Ⅱ移り変わる。

通釈 毎日、朝廷より退出すると春衣を質に入れて金を得、それで酒を買い、曲江の
ほとりで酔うまで飲んで家に帰って来る。酒家の借金などはあたりまえで、いたるところ
にある。人間七十まで生きるのはごく稀でもあるから、この時節をのがさずお
おに飲むべきである。見ると、蝶は沢山の花の中を見え隠れつしており、蜻蜓は水
面に尾をつけては飛んでいる。まことにのどかで美しい風景である。春の風光よ、私
と共に流れていこう。暫くの間、この素晴らしい眺めを賞美（しょうび）して、この機会を逃がす
ことのないようにしよう。